

立野ダムをつくってはならない理由

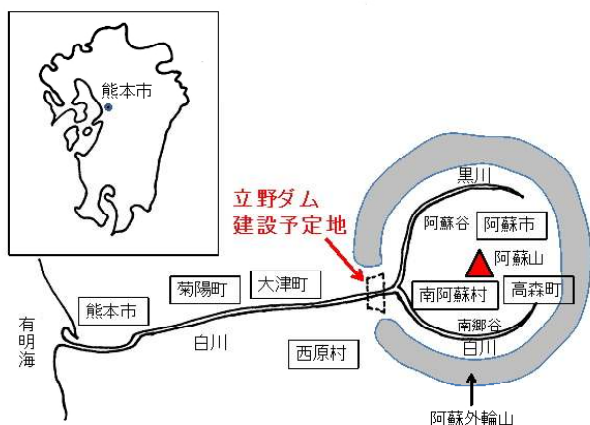
立野ダムによらない自然と生活を守る会 <http://stopdam.aso3.org>

連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康 電話 090-2505-3880

●立野ダム計画とは？

立野ダムは、熊本市を流れる白川の上流の立野峡谷（阿蘇外輪山の唯一の切れ目）に国土交通省が計画した、高さ 90 m の洪水調節専用の「穴あきダム」です。普段はダム下部の穴から水を流して水をためず、洪水の時だけ水をためるダム計画です。発電や農業利水には利用できないダムです。

1969 年の予備調査開始から半世紀余りが経過した 2018 年 8 月 5 日、国土交通省は立野ダム本体工事に着手しようとしています。

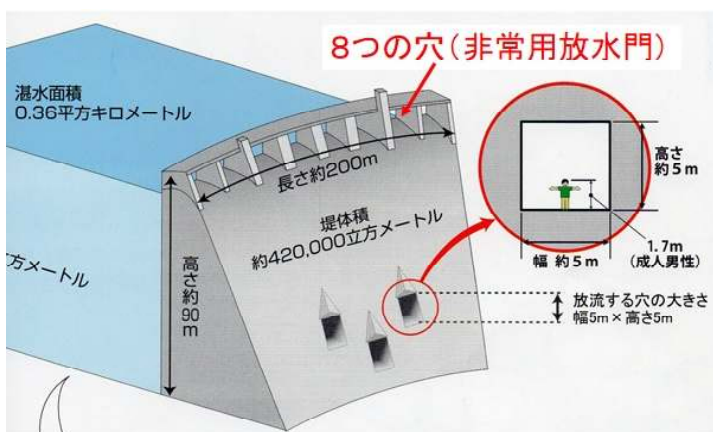


阿蘇・白川・有明海と立野ダム建設予定地の位置



立野ダム完成予想図(国土交通省作成)

●洪水時、幅5mの立野ダムの穴が流木や土砂等でふさがり、洪水調節できなくなります！



下の穴のサイズは、幅5m×高さ5m
(国交省資料より)

(非常用放水門) からあふれ、ダム下流の洪水の水位は一気に上昇します。ダムに水がたまった状態で、ダムの穴をふさぐ流木の撤去は当然できません。

ダムが満水の状態で、ダム湖のまわりで土砂崩壊が起きれば、あふれた水が津波となり、一気に下流を襲います。立野ダムは災害をひきおこします。

立野ダムには、ゲートのない3つの穴がダムの下部に開いていますが、穴の幅は5mしかありません。しかも、穴の内部に流木などが入らないように、ダムの穴の上流側は、すき間わずか20cmのスクリーン(柵)で覆われます。これでは洪水時にダムの穴は、明らかに流木や土砂、岩石などでふさがります。

洪水のときにダムの穴がふさがると、洪水を下流に流すことができず、洪水調節ができなくなり、立野ダムは短時間(2012年7月豪雨の流量なら1時間あまり)で満水になります。満水となった時点で、ダムに流れ込む洪水がダム上部の8つの穴

●熊本地震前に立野ダムができていたら、ダムは土砂や流木で埋まり、災害をひき起こしていたはずです！



熊本地震により、立野ダム水没予定地周辺の斜面の大半が崩れました。立野溶岩の上に堆積した火山性の堆積物が軒並み崩壊しています。脆弱な火山性の地質であるため、大量の土砂や樹木が崩れ、その後の大雨で白川を流れ下りました。

もし立野ダムができていたら、幅5mしかない立野ダムの穴は流木や土砂、岩石などでふさがり、ダムは埋まり、流域を災害から守るところか、災害をひき起こしていたはずです。立野ダムがなかったからこそ、流木も土砂も白川を流れ下ったのです。

付近には活断層（布田川断層）も走り、ダム水没予定地を横切っています。大半の場所で重機などが下りていく道路がつかれないので、崩壊斜面をコンクリートで固める等の土砂崩壊対策工事もできません。立野ダム完成後、洪水時にダムの水位が上がれば、周辺の火山性堆積物がさらに崩れ、湛水（たんすい）地すべりが発生するのは明らかです。

●河川改修で白川の流下能力は大幅に向上し、立野ダムを建設する必要はありません！

**国交省が情報開示した
熊本市・藤崎宮地点の白川の流下能力
(白川河口より14km地点右岸)**

**改修前：
毎秒1748トン**
(九州北部豪雨では洪水が氾濫)

**改修後：
毎秒3630トン**
(川幅が広がり高さ2mの堤防も完成)

2012年7月の九州北部豪雨で浸水被害を受けたのは、未改修の箇所だけでした。その後、河川改修が進み、九州北部豪雨クラスの大洪水が来ても白川はあふれない川になりました。

国土交通省が情報開示した資料によると、改修前と比べ白川の各地点での洪水を流せる流量が毎秒1000～2000トンほど増えています。一方で、立野ダムの洪水調節能力は、ダムが計画通りに機能しても、わずか毎秒200トンです。立野ダム建設よりも河川改修を進めるべきです。

917億円（平成24年現在）の立野ダム事業費（県民1人あたり1万5000円以上）は、地震によるダム建設現場の復旧や地すべり対策、資材費の高騰などで大幅に増えるのは明らかです。豊かで安全な白川を未来に手渡すために、立野ダム建設は中止すべきです。

(2018年7月31日更新)